

## 粘り強く自分の学習を調整すること

校長 森 和 久



夏休み中は、高校野球を始め様々なスポーツの話題が報道を賑わせていました。それらの報道の中で、私が共感を持ったのはあるフェンシング

部の話題で、練習方法を部員個々に考えさせるようにしているという内容でした。

昔の部活のイメージは、「オレについて来い」的な熱い指導者が、時間を惜しまず最適な練習方法を綿密に計画して、部員にそれを遂行させることによって良い成績を得るというものでした。(私も若いときはそういう監督でした。)しかし、それでは部員は指示待ちで受け身になり、指導者がいなければ何もできないということになってしまいます。また、チーム全体という視点で見れば最適な練習方法であったとしても、個々の視点で見たときにどの部員にも最適ということにはなりません。個の力を最大限に高めることがチームの力を高めると考えると、最大公約数的な練習が個の向上を一部スポイルしてしまうとも言えます。

そこで、一人一人が自分で自分に最適な練習方法を考えることができるような練習の仕方にシフトチェンジする部活が増えてきています。「自分に合った練習方法を自分で考える」ということが重視されてきているわけです。

「自分に最適な自己成長の方法を自律的に考えることができるようにする」というこの考え方は、当然のことですが、部活に限った話ではなく、社会でのチームビルディングや学校教育で必要とされている考え方ですし、この学校通信においても「自分で考える」ことの重要性として、様々な話題の中で述べてきたところです。今回は、来年度から実施される新学習指導要領に伴って変更される評価のあり方との関連性についてお伝えしたいと思います。

現在は4観点で行われている観点別学習状況の評価ですが、来年度から「知識、技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になります。その中で、取り分けどのように評価するのか分かりにくいのが「主体的に学習に取り組む態度」です。これについて文部科学省は、新たに「粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する」という考え方を示しました。



「粘り強く」学習に取り組んでいるか、「自分の学習を自分で調整(コントロール)」しているかで評価を行うのです。学習のめあてを理解し、どんな学習方法を行ったらいいかを自分で考え、人と対話する中で自分の学習方法を相対化し修正を図ったり、学習の成果を振り返って学習方法の見直しをしたりするような学習を行い、それができているかどうかを評価することが求められているわけです。まさに「自分に合った練習方法を自分で考える」という考え方に通じていますね。

本校では、これまでも子どもの主体の授業のあり方について研究してきたところですが、子ども自らが課題を定め、課題解決の方法を考え、その進捗状況を自らチェックし、粘り強く試行錯誤するような授業とその評価を、今後さらに工夫していきたいと考えます。さて、最後になりましたが、今月の目標は「マナーについて考えよう」です。これも「考える」ことが大事です。何のためにマナーが必要で、どんな場面で、どんなマナーを実践すればよいのかを考えることは、自分の行動のあり方をより高めるために自分の行動を自律的に調整していると言えると思います。そして、それをその場限りのこととしないためにも、やはり「粘り強さ」が重要になると考えます。